

不登校ゼロ
をめざして

カウンセリングで保護者の意識が変わる

不登校は、生徒指導上の最優先課題です。しかし、有効な手立てを見い出すことは、なかなか難しいところです。そこで、不登校ゼロをめざす取組の中から、常陸大宮市立緒川中学校の取組を紹介いたします。



I 「個人まかせ」にしない学校としての対応

緒川中学校では、月曜日の企画会で生徒指導に関する情報交換を行っています。その内容は、学年会を通して全職員に伝わります。また、職員会議、生徒指導部員会等でも生徒指導に関する情報交換を行っています。このような方法は、ほとんどの学校で行われていますが、緒川中学校では、特に次のような点に力を入れ効果を上げています。

- 職員室は何でも話し合える雰囲気である。情報交換が頻繁に行われている。
- どの生徒も自分の学校の生徒であると考え、皆で声をかけている。
- 不登校など生徒指導上の問題は、すべて自分の学校の問題であると考え、教職員がそれぞれの立場でその生徒に何ができるかを考えて行動している。
- 生徒指導主事に情報が集まるようにし、その情報をもとに支援体制をつくる。
- 不登校については、登校させようと思うより、その子とかかわることを大切にする。その生徒に適した先生や友だちがかかわり、それをサポートする体制をつくる。

II 対人関係の改善

1 協力的な学級づくり

クラスの中に、ほとんど話をしない生徒、グループづくりをさせるといつも同じ友だちとしか組まない生徒などがいます。そこで、次のようなことを実践し改善を図っています。

- 担任は、協力的な学級にしたいという願いを、生徒に繰り返し伝える。
- 担任は、朝の会、給食、清掃、帰りの会などしか生徒とかかわれない日がある。できるだけ生徒と多くかかわれるようにし、話をしたり良いところを見つけたりする。
- 帰りの会で生徒の良いところを積極的に紹介する。
- 全体に迷惑をかけることは厳しく指導する。
- 友だち関係が円滑になるようはたらきかける。(トラブルが起きないようにする。)

2 家庭への支援・家庭との連携

家庭の不安を敏感に感じ取って不安定になる生徒がいます。心の変化の大きい時期ですが、家庭が安定してくると、生徒の気持ちも安定します。中学生とはそういう時期であると捉え、時間をかけて保護者とかかわって行きます。

緒川中学校では、特に、スクールカウンセラーの活用に力を入れています。スクールカウンセラーのカウンセリングによって保護者の意識が変わり、生徒の気持ちが安定し前向きになることで、不登校が解消された事例が報告されています。

- 家庭が不安定になる原因やキーパーソンを知る。
- 保護者のカウンセリングが必要である。スクールカウンセラーによるカウンセリングを実施する。
- 家庭訪問では、親子の前で、保護者が本人を大切な子であると思っていることを伝える。
- 親子関係が良くなるように、保護者が言いにくいこと、子どもが言いにくいことを、代わりに伝える。
- 保護者や兄弟を教えた先生、地域をよく知る先生、卒業生の情報を持っている先生などのかかわりも大切である。

